

平成23年度より、日本赤十字放射線技師会は新執行部となりましたので、理事の方々から『各役員の抱負』として執筆をお願いいたしました。

QMS と文書管理

前橋赤十字病院 久保田 利夫



上州空風と嬢天下の群馬県 前橋赤十字病院 久保田です。土地の影響でしょうか私の名は「利」用される「夫」と書きます。平成23・24年度日本赤十字放射線技師会の副会長を拝命し、学術・災害医療・文書管理を担当致します。よろしくお願い申し上げます。

さて、最近当院で医療の質・安全教育講座『文書管理』という講習を拝聴しました。その内容を要約しますと、QMSの考え方に基づいて、規定書・基準書、手順書・マニュアル、帳票・ワークシートそして特にPFCを作成して、院内に存在する文書の登録・承認・周知・保管・廃棄を組織的に管理する。それとともに、業務の継続的改善（SDCAサイクル）に役立てるのが文書管理であるとのこと。

QMSとは、Quality Management Systemの略で「質マネジメントシステム」という。企業が提供する製品やサービスの品質を保つため、品質の目標を設定し、それを実現するために、PDCAサイクルを継続的に実施していく一連の流れがQMSである。（今回の講習の中では、PDCAサイクルを、決める=Standard、業務を行う=Do、内部監査=Check、標準を改訂する=Actの頭文字をとってSDCAサイクルと呼んでいました。）

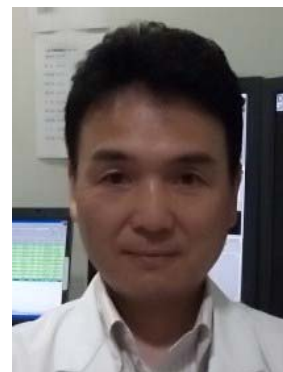
文書管理の対象としてのPFCとは、Process Flow Chartの略です。良い結果は良いプロセスから生まれるというプロセス思考に基づいて、誰が（実施者、責任・権限）、いつ（どのようなとき）、何を（インプット、資源）、どのようにして（活動）、どのような成果を得るのか（アウトプット/アウトカム）、そのためにはどのように管理（測定、管理）するのかという連鎖を明らかにすることで、質と安全を確保することを目的として業務の流れを可視化する手法です。当院放射線部でも、既に入院・外来別に一般撮影、CTやMRI撮影、放射線治療などのPFCを作成しております。

この文書管理の手法を取り入れることにより、技師経験が浅くてもあるいはローテンション等により検査担当者が替わっても放射線検査・治療は標準化された一定の品質が維持され、また様々な理由で改善が必要な時は担当者個人ではなく放射線科部全体の組織的問題とする体制ができ、安全で安心な医療の提供に有用かと思われまます。

日本赤十字放射線技師会では、微力ながら会長を補佐し皆様のお役に立てるよう会務に励みます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事就任挨拶

福井赤十字病院 中央放射線部 石田 智広



これまで理事2期を経験し、今期より副会長を拝命しました福井赤十字病院の石田です。新たな副会長職の責務に応えることができるのか不安なところはございますが、精一杯、清水新会長の元で久保田、辻、両副会長共々お力になれるよう頑張りたいと存じます。

前体制では本会の5年後10年後を目指して新たな会作りを進めてまいりました。そして、現在はその基盤を基に、会員或いは施設のつながりを強固に結びつけることができるよう、ユビキタス時代に応じた人的な基盤作りに取り組む事ができればと考えます。

今後とも時代に即応したより良い日本赤十字放射線技師会をめざし、新たな責務を果たして行きたいと思っております。先輩諸氏のご指導、ご鞭撻や、広く会員の皆様からお力をお借りしながら、本技師会が今まで以上に飛躍できますよう精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

新理事の抱負

京都第二赤十字病院 辻 秀憲



この度、日本赤十字放射線技師会の副会長を拝命しました。清水新会長のもとで、会長補佐として2年間職務を全うできるよう全力を尽くしたいと思います。会員の皆様よろしくお願いたします。

以前は、総務理事として4年間担当し、毎理事会の準備設定や議事録の作成、また、日本赤十字放射線技師学術総会の準備、役割、進行等を行いました。学術総会を無事終了できたのは、各理事の協力の賜物でないかと今では思っています。各部との連携を密にしてこの組織を事務局と共に運営するのが総務の使命であり、時代に即した技師会を運営でき、各理事のお世話係として、微力ながら職務を全うさせていただきました。運営においては、事務と総務は、相関関係があり、事務局の即決性により、総務が運営をやり易くしていただいたところが大きかったです。

私の目標とする技師会は、会員に対して、専門的なスキルであり、コンピューターを用いての学術的な研究発表を高レベル化すること、また、チーム医療を目指すために、技師会として、他の団体に匹敵するように、教育面や医療における連携等にも力を注ぎたいと思っています。我々の学会は、他の学会と異なり、職能団体であり、業務として、日常の仕事の一端であることから、日本赤十字の本社の動向や全国の赤十字の施設の経営状況等を職員に把握していただくために、本社講演を行い、日赤職員として世界の赤十字の職員としての自覚をもつための教育をも担っております。昨年、東北大震災において、赤十字団体が活動した役割は、非常に大きく、赤十字職員として、自負できるところであります。当技師会も一躍活動して救援しています。

これからの新体制は、清水会長の2つの持論である、「役員は会員のために何ができるかを考え、会員は会の事業に積極的に参加していただく」「会の活性化は、ブロックの活性化、分科会の活性化がその基礎となる」をモットーとして、これからの技師会の新チームには、総務の経験を踏まえて、各理事のサポート役として、個々の理事のモチベーションを高めるために頑張りたいと思います。

理事就任ご挨拶

神戸赤十字病院 浅妻 厚



この度、本技師会の事務局を担当する事になりました、神戸赤十字病院の浅妻と申します。宜しくお願ひします。本事務局の業務は、理事会や総会の各種手配、委嘱状や招聘状等の公文書の作成・発送及び管理、会員からの問い合わせ等の技師会窓口業務など、技師会の裏方の作業を一手に担っております。決して表舞台には出ませんが、会の運営には欠かす事のできない重要な役割である事を自覚し、清水技師会会長と表裏一体となって技師会を支えていきたいと考えております。

又、この1月より連載がスタートした「医療安全知恵の輪—放射線部門安全編」は、本社医療事業部医療安全課より、当技師会に委託された企画です。今更いうまでもありませんが、インシデント事例は、皆で共有することによって同様の事例やアクシデントを防ぐ効果が期待できます。自施設だけでは思いもつかない事例及び防止策が、全国の赤十字施設の放射線技師皆で共有できればこんなに有用な事はありません。2年以上かけて全国施設にご依頼する予定です。各施設の担当される方、是非自慢の防止策をお教え下さい。決して情報システムや機器にお金を掛けたものだけではなく、ちょっとした工夫で結構です。皆が参考になるような原稿をお待ちしています。

何分不慣れな業務であり、戸惑いを感じながらもぼちぼちと進めてまいります。まずは、5月末の総会がスムーズに執り行われるよう、準備に取り掛かっております。皆様ご協力いただけますよう宜しくお願ひ申し上げます。

常任理事就任にあたって

高知赤十字病院 山本 晃司



平成 23 年度から総務担当の常任理事を仰せつかりました山本晃司と申します。所属施設は高知赤十字病院で、勤務して 24 年目を迎えようとしています。今回の役員人事は、全国の日赤放射線技師会員ができるだけ多く参加していただける様に、北海道を除く九州ブロックから東北ブロックまでの各ブロックから 1 名の常任理事を選出、任命しているそうで、来期は北海道ブロックからの参加もお願いしているそうです。

今、日赤放射線技師会が推し進めているのは、ホームページやメーリングリストを使った会員同士の意見交換、情報の共有化、また各分科会の活性化です。

次期構想ではありますが、費用をかけてホームページのグレードアップ。そうすることによって、ストーリーミングを使った、学術大会、分科会講習会のホームページへのアップ。ソーシャルネットワークシステムを使っての簡便な意見交換。日赤放射線技師会員だけの CT、MRI などの放射線医療機器の性能、仕様、保守のロコミ的な情報掲示板の作成。

これらのことを実現させるには、セキュリティーなどの運用面も問題となりますが、一番の障害は、責任の所在や発言者の身分証明が問題になってくると思われます。これは同じ日本赤十字社の社員であることによってクリアーできるのではないのでしょうか。

昨年は東日本大震災によって引き起こされた未曾有の大災害、そしてそれに立ち向かう人々の姿を目の当たりにして「絆」がその年を表す漢字一字に選ばれました。私たちが日赤放射線技師会員であることの「絆」「つながり」を大事にした会の運営、そして、今後、近いうちに起こりえると言われている東南海大地震に対して、少しでも体制作りができればと思っております。

清水文孝会長を先頭に分科会世話人、ブロック理事、常任理事、全員でがっちりスクラムを組んで、皆様のお役に立てられるよう頑張っていきたいと思っております。各会への参加、ご協力をこれからもどうぞよろしくお願いたします。

3期目のクロス&アクション

大分赤十字病院 戸口 豊宏



この度、平成23年6月役員改選に伴い清水会長より3期目理事を拝命されました大分赤十字病院の戸口と言います。大分といっても皆さんなんとなくピンとこないかと思いますが、別府温泉・湯布院と云えば“あっ、あそこか！”と判ってもらえるかと思いますが。九州新幹線も全面開通しましたが、九州の東に位置する大分には新幹線路線はなく、ますます取り残される一方です。しかしながら昨年11月は、日本赤十字社病院長連盟が別府で開催され、全国ほとんどの赤十字病院長が来られ、できうる範囲内でのおもてなしを十数名の職員で致しました。そして、そのスタッフとしてさまざまな貴重な経験を行うことができました。また、昨年4月は石巻に救護班として派遣され、救護活動をしてまいりました。このような昨年度の経験を何らかの形で技師会運営に役立てられたらと思います。

さて、前任期中は、益井会長のもとで表彰を担当してまいりました。2期の間に、皆様方のご協力のもと功労表彰55名、奨励賞個人の部5名、施設の部4施設、感謝状2名と多くの方を表彰することができました。また、表彰規定なども改訂し、退職前に表彰を行うことで少しでも総会時に会員の皆様方の前で表彰できるようにもいたしました。しかし意図とは裏腹に功労賞の表彰者が出席してもらえず、まだまだ考える余地がある次第です。

今回は、表彰に加え新たな業務として福井赤十字病院の石田副会長から組織調査を引き継ぎ、会員入退会、会員台帳の整理、会員メーリングリストの登録作業などを担当させていただいています。システム的に、すぐには対応できないところがあり皆様方に迷惑をおかけしていますが、こちらの方も、少しでも改善できるよう各理事・各ブロック理事と連絡を取り合いながら会務を遂行していこうと思います。今年も、5月31日・6月1日両日で日本赤十字放射線技師学術総会を開催します。その時は気軽に声をかけてください。会員の皆さん方とクロスし、3期目につなげていきたいと思っています。まだまだ会員の皆様方にはご迷惑かけますが、これからも会員の皆様方のご協力のもと、一つひとつアクションしていきますのでよろしくお願い致します。

就任にあたって

成田赤十字病院 前川 栄寿



成田赤十字病院の前川と申します。会員の皆様に、再任のご挨拶をいたします。

私はこれまで益井前会長の下、財務担当理事を4年間務めさせて頂きました。今回、理事会に残るにあたって「他の役職はとても大変で、私には荷が重く少しは慣れてきた財務なら」とお願いした所、清水新会長のご配慮で財務担当を続ける事になりました。

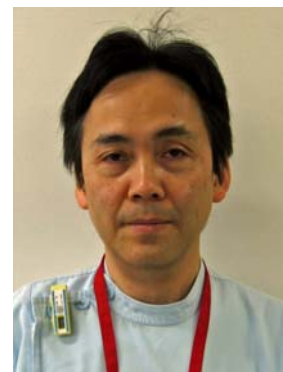
4年前は、右も左も全く分からないまま理事会の一員となりました。益井会長の温かいご指導を受けつつ、しかしその大胆な会運営、理事会改革に翻弄されながら預金残高の減少に憂慮を募らせていました。実際、定期総会では赤字続きの決算を危惧するご質問も幾度か受けました。この様な状況の中、理事全員に一層の経費節約と理事会回数削減をお願いし、出費を抑えてきました。現在は、HP広告収入も大きな柱となり、22年度決算書にお示ししたとおり黒字決算となっています。また、23年度予算ではブロック活動の活性化を願う活動費の増額もかないました。

今後もHPの大幅改変等、出費が予想されますが健全な財務体質を維持すべく努力して行く所存です。皆様のご協力をお願い致します。

最後になりましたが、今回理事会を離れられた松江赤十字病院、益井 謙様、磯田 康範様、日赤医療センター、鈴木 利男様、名古屋第二赤十字病院、新美 孝永様の四氏にこれまでのご厚情を深く感謝申し上げ私の挨拶といたします。

常任理事就任にあたって

仙台赤十字病院 安彦 茂



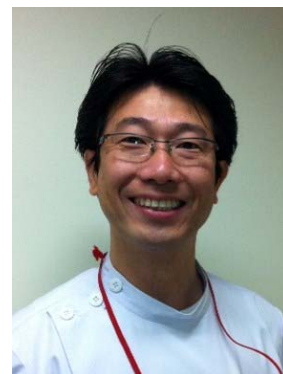
平成 23 年度より、学術担当の常任理事を勤めさせていただいております仙台赤十字病院 安彦 茂です。昨年の日本赤十字放射線技師学術総会は、東日本大震災のため中止となりましたが、今回は通常通り開催すべく準備を進めております。日本赤十字放射線技師学術総会は平成 22 年度より、業務研修会から学術総会という名称へ変更されました。変更理由が、「従来の受動的研修会を脱却し、全員参加型の学術総会に変貌していくための名称変更」であることからわかる様に、講演ばかりではなく会員の皆様の研究発表が無ければ学術総会は成り立ちません。会員の皆様の積極的なご発表をお願いいたします。

また、日本赤十字放射線技師会は、南は沖縄から北は北海道まで全国に広く展開しております。このため、HP（ホームページ）にも記載されているように、「ユビキタスネットワーク」を活用した 21 世紀型職域団体をめざすことがどうしても必要となってきます。現在の HP とメーリングリストを活用した運用はお世辞にもうまく言っているとはいえない状況で、急速に普及するスマートフォンなどでも活用されているソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS：social networking service）への対応なども考慮すべき時期に来ております。しかしながら、どんなすばらしいシステムを構築しても、会員の皆様が情報発信を積極的に行って有効利用していかない限りはいわゆる絵に描いた餅になってしまいます。どうか、ご理解を賜り皆様のご協力をお願いいたします。

最後に、東日本大震災の被災地宮城県にある施設として、皆様にいただいた多くのご援助に心から御礼申し上げます。

常任理事就任にあたって

日本赤十字社医療センター 竹安 直行



平成23年度より学術を担当させていただきます、日赤医療センターの竹安直行です。学術の中でも主に分科会を担当させていただいています。

日本赤十字放射線技師会は会誌の発行から、ホームページを使い情報提供を行うようになりました。これは、いつでもどこでも最新の情報と最新のデータを活用できるということです。今期就任しました清水会長からのスローガンとして「継続と躍進」「連携と連動」が掲げられ、学術としては、ホームページを効率的に活用して、日赤技師会の会員のため、会員目線での話題や必要とされる情報を提供させていただけるよう努力していきます。

現在分科会には、CT・MRI・放射線治療・乳房画像・医療情報・核医学の6分科会があります。CT分科会からは、各メーカーからの逐次近似法の解説や施設紹介、医療情報分科会は、各施設のシステムマップの提供を行っています。このように、それぞれの分科会を中心に話題の提供を行っていきたいと思います。また、必要なものがあればこの分科会の枠を超えて情報提供をしていきます。

本会のホームページは、他の専門団体の掲載とは違い、会員専用で運用・運営をしています。そのため、普段あまり聞けないことや他の赤十字病院ではどのように運用しているかなど病院同士の連携ができることも魅力の一つになっています。まずは、日赤技師会のホームページを見て、どんな些細なことでも、HOT LINE から投稿していただき日赤の放射線技師の連携を深めていただき、敷居の低い会の運営ができればと考えます。

また、年に一度の学術総会や地域をブロック化したブロック研修会も行っていますので、是非多くの会員の皆様にご参加していただき、日赤技師会を盛り上げていただければ幸いです。

日本赤十字放射線技師会常任理事就任について

諏訪赤十字病院 牧内 正史



今回、常任理事のお役目を仰せつかりました、諏訪赤十字病院 画像センター 牧内正史と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

先日、清水会長より、諏訪赤十字病院より1名常任理事を選出して欲しいと、依頼がありました。周りを見渡した所、一番体が自由になりそうな自分しか居らず、止む無く…もとい、快く引き受けました。

引き受けたからには、清水会長はじめ、副会長・各理事の方々の足手まといに成らぬ様、出来る限り努力したいと思っています。会長いわく、「どうせやるなら楽しくやろう」を実効したいと思います。

担当は、IT推進部という事で、ホームページの改訂・運営管理・企画という盛り沢山の業務です。年代的にはアナログからデジタルへ移行する過度期の人間です。新人で、あまり難しい事は解りませんので、これから皆さんに教えて頂きながら、微力を尽くさせて頂きたいと思っています。

また、お恥ずかしい事ですが、今まで、日本赤十字の技師会活動には、あまり関心が無かった事を後悔しています。

今後、会発展のために頑張りますので、ご指導、ご鞭撻を、宜しくお願い致します。

常任理事（広報担当）就任にあたって

武蔵野赤十字病院 荒井 一正



このたび IT 推進部広報担当に就任いたしました武蔵野赤十字病院の荒井です。
常任理事は、はじめての就任となりますので行き届かない点が多い点が多いと思いますが皆様のあたたかいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

広報の活動は、【電子化されたニュースや会誌の企画そして発刊を行う】とあります。
現在、過去の会誌を見ながら勉強しています。会員の皆様へ役立てられるニュースや会誌発刊の企画を提案できる様に、がんばっていきたいと思います。清水会長からは 800 字程度の文章をお願いされていますが、自分に文才がありませんので以上で挨拶の文面とさせていただきます。